

石岡タロー

17年 駅に通い続けた一匹の保護犬
45年にわたる感動の実話！



実話に基づく感動物語

ひたむきなタローの姿を見守る極上の映画体験!

「タローにとって、自分の気持ちに正直に行動することがすべてなんです」

ストーリー

昭和39年、茨城県石岡市の東小学校に保護された一匹の犬。「タロー」と名付けられたその犬は、誰に教わる事なく、朝は校門で児童を出迎え、昼は一年生の教室を順番に回っていた。そんな賢い行動ですっかり学校の人気者になったタローだが、ある日から石岡駅までの2キロの道のりを往復する日課を始めるようになる。歩道橋を渡り、国道を歩き、踏切を渡り、石岡駅の待合室に入って座る。じっと改札口を見つめ、しばらくすると駅を離れて再び小学校に戻る。そんな行動を朝と夕方の1日2回、毎日続けた。

タローは石岡駅周辺でも顔なじみとなり、待合室でも駅前の商店街でも多くの人にかわいがられた。

タローの駅通いは17年も続いたが、タローが駅で誰を待っていたのかは誰も知ることがなかった。

「後悔のない人生などないのなら、せめて、タローの一途な生き方を応援しようじゃないですか」



制作現場でも感動の物語が..

タロー役三頭のうち二頭は実際の保護犬。仔犬のチャッピーは撮影直前に里親が決まり、もう一頭のチャビはドッグトレーナー西岡さんの元で里親募集のまま撮影に参加。撮影前に監督と対面した時は人に怯えて決して目を合わせなかったチャビ。テスト撮影でも落ち着きがなくスタッフ総がかりでカメラの方に注意を向かせた。撮影は新型コロナの影響で三度に渡り大幅に延期されたが、その間も里親は決まらぬまま。しかし西岡さんの愛情を受けスタッフにも慣れてきたチャビは、撮影が進むにつれて一発OKを連発、堂々たる歩きっぷりを見せてスタッフ全員を驚かせた。

そして十ヶ月に渡る撮影の最後の日、ついにチャビの里親が決まった。映画のボランティアスタッフの方が名乗りを上げてくれたのだ。現場は長い撮影を終えた達成感とこれ以上ない幸せに包まれ、最高のクランクアップとなった。

チャッピー／チャビ／ダイ／山口良一／菊池均也／渡辺美奈代／松木里菜／寺田藍月／山東文発／青木日菜／まいと豊／グレート義太夫

監督・脚本：石坂アツシ

プロデューサー：山田サダ代／撮影：荒井康次／音楽：小松重次／ドッグトレーナー：西岡裕記

製作：合同会社 ワン・ポイント・シックス © 2023 ONE POINT SIX. All Right Reserved.



@ishiokataro



@ishiokataro_film



@石岡タロー

最新の情報はコチラから▶
ishiokataro.com

